

令和4年度

# 奈良市立看護専門学校

## 推薦入学試験問題

### 国語

試験時間 50 分（問題 1～17）

#### 注意事項

1. 試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
2. 机には、受験票、筆記用具、時計以外のものを出してはいけません。
3. 係員の指示に従って、下欄及び解答用紙に受験番号と氏名を記入し、解答用紙の受験番号欄をマークしてください。
4. 解答方法：選択肢(1～5)から**正解を一つ選び**、解答用紙の解答欄の該当番号をマークしてください。二つ以上マークした場合には誤りとなります。
5. マークは解答用紙の「マークの方法」の「良い例」のように濃く、はっきりと塗りつぶしてください。「悪い例」では採点されない場合があります。
6. 試験中に問題の印刷不鮮明等に気付いた場合は、手を挙げて係員に知らせてください。なお、問題の内容に関する質問にはお答えできません。
7. 問題の余白はメモ等に使用して構いません。
8. この問題冊子は回収します。持ち帰らないでください。

受験番号

--	--	--

氏名

--

## 第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

(上杉謙信は交戦中の武田信玄へ和議の使者・斎藤下野を送り込み、交渉さなかに武田領に攻め入った。下野は捉えられ信玄の前に引き出された)

信玄は、本堂の真正面に、床几をおかせて、寄っていた。具足のうへの緋の衣も、その怒れる顔も、さながら一塊の焰のように見える。

階の下に、十名はひきすえられた。九名をうしろに、斎藤下野ひとは、前に突き出されて、坐ったのである。

刮つと、炬のような眼で、信玄はにらみ下ろしている。実に長いこちのする間であった。——下野も黙然と信玄の顔を見ているらしかった。

「使者。——いや、下郎。なぜ、返辞をせぬか」

斎藤下野は、(ア) 信玄の感情をなだめるような、口ぶりで、

「お館には、もうそれがしの名をお忘れですか。それがしは謙信の家臣斎藤下野ですが」

と、いった。(A)

次に、信玄は、持ち前の雷声一喝で、いきなり怒鳴ろうとしたらしい。そうらしい血色と肩の厚い肉が瘤みたいに盛り上がった。だが、四十二ともなると、若い頃の武田晴信とちがって、分別というものが、こみあげる激情の瞬間にもよく間に合うものらしい。(イ) 忽ち、にやにやと笑い出したのである。そして語調を一変して、こう訊ねた。

「そうそう、越後の使者斎藤下野であったか。では、あらためて訊くが、汝等は、ついきのうまで、わが主、謙信のことばなりと称し、ふたたび年来の和議をかためて欲しい。いかようとも和談をととのえたいなどと、慇懃、口を酔くし、頭を下げて、この信玄に油断させおったが、あれは其方どもが、出立の前に、謙信から申しつけられて参った謀略であろうな。……どうだ。汝等は、汝等の本国において、かく不意に、信玄の領地へ兵を出すものと、知って使いに来たか、それとも、知らずに来たか。ありのままを申せ。ありのままを……」

信玄の質問は、言葉の表に現わされたものだけでなく、斎藤下野の答えから、何か引出そうとする意図を裏につつんでいるようにも思われた。

いま直ぐにも、彼自身が取らなければならない必要にせまられている作戦構想のうえに、「敵国の決意の程度如何」は、もっとも煩わされている課題の一つにちがいない。(B)

下野は、それと覚ったのだろうか、また、どう考えたものか、そのとき唐突に、

「あははは。わはははは」

汚い前歯を吹き飛ばさぬばかりな声して笑った。そして笑いを収めると、徐ろに答えたのである。

「甲館の主、(注)機山大居士とは、おそろべき爛眼の持主であると、常日頃から伺っておりますが、今のおたずねは、子どもの持っている菓子をあやして奪うような御質問で、少なからずあなた様の人品を軽からしめます」(C)

人も無げである。信玄そのものばかりでなく、周囲にある幕将までをまるで無視している放言だった。当然、あたりに居ならば鉄甲燦々たる諸将の感情はうごかずにいられない。ひしひしと陰悪な視線や身ゆるぎが、声なきうちに、下野を強圧していた。

(ウ) 下野にはてんで無反応であった。片目が悪いという特質は、こういう際には至極その平気を持していやすいものらしい。しきりと一つの眼をぱちぱちとしばだたいていたが、(エ) いわせておくと、まだいうのだった。

「他国は知らず、わが越後では、軍の方策も、内治の仕方も、すべて謙信公の御一存であって、

(オ)を受くる者も、ごく少数の老臣と帷幕のお方に限られております。何でこの斎藤下野のごとき末輩のよく知るところでございましょうや。……それをば、知って来たか、知らずに使者に来たかとのおたずねですが、問わでも、知らざる使者と極っておりますものを。……なぜなればです。もし謙信公の御胸中に、使いの口上とはべつな謀略があるのに使いするなりと、使者自身が知っていたら、敵中にまかり出て、敵の国主に対し、そう恬然たる虚構を顔に持ちきれぬものではありません。どこかに人間の正直なところが出てしましましょう。それをまた、お見のがしあるようなあなた様でもないことは、謙信公以下、越後の者共、みな心得ぬいておるところでもあります。——たとえば、今年の春、謙信公のお留守に際し、またここ連年、越後遠征に、その疲弊せるを窺い、突然、約を破って、国境の割ヶ嶽を奪取なさるなど、猫にしても、狡い勘の長けた猫でなければ為し能わないことですからな」

もう一度、このあとで下野に、哄笑させる違をおいていたら、信玄の左右の者か、或いは階下の諸将などが、彼の頭へ忽ち土足や唾を加えたかも知れなかった。㉑

しかし(カ)信玄はさすがにそれを苦笑で留めていた。かえって万一の事を庇うように、下野の言が終るか終らぬうちその巨軀をぎしと床几から上げて、

「この舌長奴を、雲峰寺の堂衆にあずけ、信玄が凱旋の後まで、慥と、穴倉へでも抛りこんでおけと申せ。その余の輩もすべて獄に下げろ。——いずれ帰国の後にする」

いまはこんな者どもの始末をしている違などは持たん——という信玄の容子はすぐ諸将の心に映った。㉒

信玄が、床几から身を起したことは、その一動作がすでに全軍へ向って、

「いざ——」

との発向を命じているものであった。

廻廊の東西、両隅に佇っていた螺手が、貝の口を唇に当てて、細く高く長く短く、貝の音を吹き鳴らした。

貝の吹き方は、国々で法がちがうという。いずれにせよ出征の武者たちは、その音色を五体で聞きわけて、忽ち、ひたぶるな血を沸かし、眼に戦場をすでに観ている。

また、あとに残る国中の人々も、その音に依って、軍の発向を知り、軍に従ってゆく知縁の将士を想いに描きながらその一瞬を胸の中で祈念していた。

(吉川英治「上杉謙信」による)

(注) 機山大居士：信玄の呼び名

問題 1 次の文は本文の一部である。本文中の㉑～㉒のうち、挿入場所として最も適当なものを一つ選択せよ。

その示唆を、下野の顔つきから、読み取ろうとするのかも知れなかった。そういう突嗟の機謀は非常にするどい大将だとは下野もかねて聞いているところである。

- 1 ㉑                      2 ㉒                      3 ㉓                      4 ㉔                      5 ㉕

問題2 下線部(ア)「信玄の感情をなだめるような、口ぶりで」とあるが、下野はなぜそのような言葉遣いをしたのか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 信玄を落ち着かせて、自分への罰を軽くしてもらおうと考えたため。
- 2 信玄が自分の名前を忘れるほど焦り、怒っており、そのままでは落ち着いた会話ができないと判断したため。
- 3 信玄の神経を逆なでし、わざと怒らせることで、こちらのペースで話を進めようと考えたため。
- 4 主君の宿敵である信玄のことが憎くてたまらないため。
- 5 自分が謙信の使者であるということを否定するため。

問題3 下線部(イ)「忽ち、にやにやと笑い出したのである」とあるが、信玄はなぜそのような態度を取ったのか。最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 友好的に接して、自分の度量の大きさを見せつけてやろうと考えたため。
- 2 下野の考えは全てお見通しだと、勝ち誇っているから。
- 3 優しさを見せて、信玄側に寝返るように仕向けるため。
- 4 下野のとぼける様子が下手な芝居のようで面白く感じたから。
- 5 下野の挑発に気づき、逆に落ち着いて下野から情報を引き出した方が得策と悟ったため。

問題4 空所(ウ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 それゆえ
- 2 その上
- 3 いずれにしても
- 4 けれども
- 5 それに加えて

問題5 下線部(エ)「いわせておくと、まだいうのだった」とあるが、下野がしつこく言い続ける理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 相手の怒りを誘うことで少しでもここに足止めし、味方が態勢を整える時間を稼ぐため。
- 2 言い訳が終わった時点で自分たちは斬られると考えたから。
- 3 謙信がいかに戦に<sup>た</sup>長けているかを信玄にわからせ、信玄の戦意喪失を図るため。
- 4 自分たちを斬らせて、信玄を「使者を<sup>ひきょう</sup>あやめた卑怯者」に仕立てようと考えていたから。
- 5 片目が悪くてまわりの状況を読めず、恐れおののいているから。

問題6 空所(オ)に当てはまる語句として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 尋問
- 2 慰問
- 3 詰問
- 4 査問
- 5 諮問

問題7 下線部(カ)「信玄はさすがにそれを苦笑で留めていた」とあるが、信玄が苦笑した理由として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 信玄が下野を痛めつけようとしたときに、家来に先をこされそうになったから。
- 2 本気で怒ると小さい人間であるとみなされるため、笑わざるを得なかったから。
- 3 先に約を破って謙信を攻めた信玄こそ卑怯だという下野の言い分も正しいと認めざるを得なかったから。
- 4 悪態をつき続ける下野の処分を決めかねて困惑したため。
- 5 事実ではないことを言われ、馬鹿馬鹿しく思ったから。

問題 8 次のうち本文の内容に合致する記述として最も適当なものを一つ選択せよ。

- 1 気づかぬうちに領土に攻めこまれ、準備の間に合わぬ信玄は、できれば謙信と和睦したいと考えている。
- 2 下野が和議の使者として信玄のもとに送り込まれたのは、謙信から厚い信頼を得ているためである。
- 3 下野は言葉では否定しているものの、実際には謙信が信玄の領地に兵を出すことを事前に知っていた。
- 4 信玄は弁の立つ下野に感心し、信玄側に寝返らせ、自分の使者として引き抜こうと考えている。
- 5 国中のすべての人々が、螺手が吹き鳴らした貝の音を聞いて軍の発向を知り、戦場に集った。

第 2 問 次の各問いに答えよ。

問題 9 下線部の漢字の読み方が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 政治家の不正を糾弾（きょうだん）する。  
2 この映画は凡庸（はんよう）な作品だった。  
3 10年分の情報を網羅（こうら）する。  
4 事故の発生を大変遺憾（いかん）に思う。  
5 アルバイトで生活費を賄う（あきなう）。
- (2) 1 悠久（ゆうしゅう）の平和を願う。  
2 経過を逐一（ちくじ）連絡する。  
3 学校の規則を遵守（そんしゅ）する。  
4 謙讓（けんそん）の精神を心掛ける。  
5 はやりの言葉が廢れる（すたれる）。
- (3) 1 真っ暗な洞穴（どうくつ）の中を進む。  
2 知育偏重（へんじゅう）の教育は良くない。  
3 穏やか（すこやか）で過ごしやすい気候が続く。  
4 チームは接戦の末に辛勝（こうしょう）した。  
5 日光をカーテンで遮る（さえぎる）。

問題 10 下線部の漢字が正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 1 愛愁を帯びた音楽を奏でる。  
2 疲労が徐々に蓄積していく。  
3 重大な過誤を謝罪する。  
4 出先で貴重品を紛失する。  
5 新しい学校を総設する。
- (2) 1 その絵画は現想的な雰囲気醸し出していた。  
2 システムの稼働率を上げる。  
3 そのやり方を続けていては功率が悪い。  
4 私が嘘をついているなんて滅想もないことだ。  
5 亡くなった作家の遺稿をまとめて出版する。

- (3) 1 彼女の作品は偉彩を放っている。  
 2 選手の栄与をたたえる。  
 3 倉庫に眠っていたお宝を鑑定する。  
 4 相手の弱点を看破する。  
 5 度重なる不況が経営難に迫車をかけた。
- (4) 1 人事に退職を勸奨される。  
 2 昔からの慣工にならう。  
 3 目上の人に嫌讓語を使う。  
 4 弾害裁判で裁判官を罷免する。  
 5 付課金の支払いの対象になる。

問題 11 次の下線部と同じ漢字を使うものを一つずつ選択せよ。

- (1) この病院には非常に多くのカン者が入院している。  
 1 圧カンのパフォーマンスを目の当たりにする。  
 2 借金を返済するために借金をするという悪循環カンに陥る。  
 3 彼は手ごわい相手にも果カンに挑んでいった。  
 4 カン易宿泊所に滞在する。  
 5 政府は内憂外カンの真ただ中にある。
- (2) 彼の身のケツ白が証明された。  
 1 清ケツ感のある服装で出かける。  
 2 その詐欺師は業者とケツ託して悪事を働いた。  
 3 交渉はついにケツ裂してしまった。  
 4 長年の争いがようやく終ケツした。  
 5 彼女は自分の発言で墓ケツを掘った。
- (3) 全員から参加費をチョウ収する。  
 1 その小説家は格チョウ高い文章を書きあげた。  
 2 犯人の特チョウを聞き出す。  
 3 その経営者の発想は常識をチョウ越している。  
 4 薬剤師が医薬品をチョウ合する。  
 5 彼女は人気絶チョウの歌手だ。

問題 12 次のうち「残念」の同意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 遺憾                      2 憎悪                      3 感動                      4 遺言                      5 意見

問題 13 次のうち「助長」の反意語として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 阻害                      2 結合                      3 逆襲                      4 保護                      5 救出

問題 14 次の語句の意味として正しいものを一つずつ選択せよ。

(1) ジェンダー

- 1 高齢者や障害者の日常生活に妨げとなる障害を取り除くこと。
- 2 投入される費用や労力と、それによって得られる成果や満足度の割合。
- 3 歴史的・社会的に形作られた男女の差異。
- 4 経営活動に伴うさまざまな危険を最小の費用で最小限に抑える管理方法。
- 5 境界・国境が曖昧なこと。

(2) 枚挙に<sup>いとま</sup>遑がない。

- 1 興奮や緊張をしているため、心が落ち着かない。
- 2 たいへん忙しいので、だれでもいいから手伝ってもらいたい。
- 3 動作や物事が続いており、終わらない。
- 4 あまりにも多いので、いちいち数え上げていられない。
- 5 忙しかったり手に負えなかったりして、泣きごとを言う。

(3) 正鵠<sup>せいこく</sup>を得る。

- 1 他人に対する態度が低姿勢である。
- 2 物事の急所や要点を、正しく押さえる。
- 3 相手の言い間違いなどをとらえて、そこにつけこむ。
- 4 死を覚悟しなければいけないところで、何とか助かる。
- 5 自分にふさわしい活躍の場を得て、いきいきとしている。

(4) 自縄自縛

- 1 相互に矛盾し対立する二つの命題が、同じ権利をもって主張されること。
- 2 我慢強く耐え忍んで志を変えないこと。
- 3 どんな困難や障害をも乗り越える強い意志をもっていること。
- 4 逃げることのできない、苦境に立たされること。
- 5 自分の言動が足かせとなって、本来の自由な活動ができなくなること。

(5) 紆余曲折

- 1 こみいった事情があつて、物事が複雑な経過をたどること。
- 2 世の中すべての人や物事には繁栄と衰退があるということ。
- 3 一度疑い始めると、何でもないことまで疑問や不安を感じたり、恐ろしくなったりすること。
- 4 頭で考えただけで、理屈は通っているが実際にはまったく役に立たない議論や計画のこと。
- 5 結果のよしあしにかかわらず行動や運命を共にすること。

問題 15 次の意味を表す言葉として正しいものを一つずつ選択せよ。

- (1) 同種のもものが集まってつくる一団・群れ
- 1 パートナーシップ
  - 2 ミッション
  - 3 ワークショップ
  - 4 クラスター
  - 5 フロンティア
- (2) 他人の嫌疑を受けやすい行為は避けるようにせよという戒め
- 1 君子は独りを慎む
  - 2 李下に冠を正さず
  - 3 木に縁りて魚を求む
  - 4 愚公、山を移す
  - 5 汗馬の労
- (3) 余談・前置きをぬきにして、直接に問題の要点に入ること
- 1 単純明快
  - 2 単刀直入
  - 3 急転直下
  - 4 電光石火
  - 5 問答無用

問題 16 次のうち下線部の言葉の用法として正しいものを一つ選択せよ。

- 1 彼は映画の話題になると蘊蓄を注いで語り始める。
- 2 ふとした疑念が首をもたげた。
- 3 好景気で皆が株式投資ブームに浮かされた。
- 4 いろいろ説明しているが、ことのつまりお金を援助してほしいということだ。
- 5 マスコミの過剰な取材活動は目も余る。

問題 17 次の記述に当てはまる人物の名前として正しいものを一つ選択せよ。

青森県生まれのこの小説家は、自虐的かつ道化的精神と絶妙の語りで人間の偽善を告発する作品を次々に発表した。戦後は無頼派文学の旗手として活躍したが、昭和 23 年、玉川上水で入水死した。「桜桃」「ヴィヨンの妻」「富嶽百景」など多くの作品を著した。

- 1 川端康成
- 2 芥川龍之介
- 3 谷崎潤一郎
- 4 三島由紀夫
- 5 太宰治

以 上